

COLUMN

鎌倉の猫事情 第六十八話

無事、愛妻スピーーと、当時一緒に暮らしていた末娘ジュリーの待つ我が家に帰り着くことができたグーニー君でしたが、鎮静剤が効きすぎたのか、私のベッドに横たわったまましばらくぼんやりとしていました。猫たちは家の中でもそれぞれの縄張りがあり、テレビの下はグーニーの縄張り、ソファの下はスピーー、餌場は皆のものというようにはっきりと分かれています。たとえば、グーニーとスピーーが大喧嘩をして、スピーーがかなわないと見てソファの下に逃げ込むと、どんなに興奮していても決してグーニーはソファの下には足を踏み入れません。そして、意地悪くソファの外で座り込んで待ちます。スピーーはソファの下では完全に安全ですから、落ち着き払っています。そのスピーーとグーニーがこの家の中でここが自分の巣と心得ているのが私のベッドです。2匹とも小さい頃からこのベッドの上で育ってきました。グーニーは台所で小魚の袋なんかを見つけると、得意げにこのベッドに持ち帰り、私に「食べていいよ」というように見せていました。スピーーは合計37匹の子猫たちをこのベッドの横で出産し、育てあげました。その、帰るべき巣であるベッドで、グーニーは傷つき弱っていました。それでも病院通いを続けながら、一日一日を踏みしめるように少しずつ元気を取り戻していました。ベッドから降りて、私の帰りを階段の上で向かえてくれてもいました。私は毎日グーニーの病状を用心深く確かめ、前のようなひどい発作が起きるより前に、病院に連れていくように心がけていましたから、毎日が綱渡りのようでしたがどうか穏やかに暮らすことができていました。スピーーとジュリーも、そんなグーニーを、見守っているようにも見えました。が、近所の猫たちはそ



うは間屋がおろしません。あれほど肩で風を切るようにして我が物顔で裏路地を威嚇し、歩き回っていたグーニーが、どうも弱っているようだというのを、猫達が見逃すはずがないのです。最大のライバルだった灰色猫が去ってから平和だったこの界限に、不穏な空気が流れ始めていました。我が家を何うようにミルクホールの厨房裏や、物干し台にまで今まで見かけなかった猫が姿を現すようになっていたのです。それも敵は一匹ではないのです。黒猫を追い払ったかと思うと、大きな太った茶トラの猫が不敵な面構えでこちらの窓を伺っています。この自信たっぷりの大きな茶トラ猫が、ついには、家の中にまで侵入してくる勢いでいたのですが、その後とんでもない事をしてくしたのです。



to be continued

Devil

悪魔からの誘い

真夜中の2時。夜中に鳴く鳥の声が聞こえる。天からの気持ちのいい風に吹かれて、ふわふわと雲の上を漂っているような夢見心地気分。そこへ超自然的な何かが通り過ぎて、足をくすぐった。「あ、くすぐったい！何をする！・・・」「ふん、相変わらずのごあいさつだね」と、いつもの悪魔が黒いマントと三角頭巾、手にはギラリと光る鎌という、芝居がかった装束で部屋の真ん中に現れた。「ちょうど、いい気分で眠っていたところだと言うんだろ？天からの風？夜中の鳥？ふわふわ雲の上？」「なんだって？貴方はいったい何の権利があって人の夢にまで立ち入るんです」「まあ、そう怒るな。今夜は、君に折り入って好い話があるな」と、悪魔はいつになく機嫌が好い。「いつだったか、君に約束した件だがね」「ああ、この部屋を通り道にする代りに何か願い事を叶えるって話ですか？あれほどはぐらかされて今さら言われてもね。それに、あれから色々考えたんですけどね、悪魔に頼ってどうにかするっていうのは、いったいどんなもんかなってね。だから、もう別にいいっていか・・・どうせ、この部屋は勝手に通るわけだし・・・」「何を、ぶつぶつ言うてるのかな？ふん、いいだろう。君も少しは大人になったようだな。その件で、我輩から提案があるんじや」「提案って？」「うむ、まあ、君も微力ながらけなげに生きておるようだし」「微力とか、けなげとか、大きなお世話・・・」「それで、通行料としてだね、君が我々の仲間になっても差し支えなからうと思うてな。それについてはな・・・」と悪魔は、するりとマントを脱ぎ、見覚えのある背広姿になった。こうして見ると、普通のサラリーマンにしか見えない。その眼鏡をかけたサラリーマン風の悪魔は、「ほら」と、小さながま口のようなものを私に差し出した。「ここに、マントと、頭巾と、鎌が入っておる。便利なポータブルセットじやよ。これを君に進呈しようじゃないか」「あ、悪魔の仲間？手先になれてってそういうことですか？」「何を大袈裟に・・・」「だって、それは、悪魔に魂を売ってってことじゃないですか？！」「魂を売って？ふん、馬鹿馬鹿しい。こちらには魂などござろしておる。誰が、そんなもん買うものか！それこそ迷信じやよ。人間どもは、くだらん迷信を信じ込むから困る。笑止じや！なんのかわの手に負えんことには屁理屈つけおって、こちらにおる知り合いの神たちも、お前達人間どもは困ったものじやと言っておる。こっちの方がよほどせいせいとした理屈の通るさっぱりとした連中ばかりじや。まったく人間どもと暮らしたら、うじうじと古臭いことばかり・・・ふん、笑止じや、笑止！・・・」辺りはすーっと暗くなり、悪魔は髪を逆立て憤慨しながら闇の中へ消えていった。・・・なんであんなに怒ったのかな・・・笑止だって？迷信だって？何が？悪魔ってなんだっけ？





.....ANTIQUES

伊万里・古陶磁
和洋家具
古民芸
アンティーク



ミルクホールでは
大正・昭和初期の日本のものを中心に、和洋
家具、アンティーク等、毎月入荷しています。
伊万里や、古代の発掘品など、
骨董ファンの方にも楽しんで頂ける
掘り出し物も揃えています。

最近入荷した

☛ ミルクホールの 珍品達

明治時代 ゴルフ絵皿 ¥7800

日本人は、明治・大正時代に始めて西洋文化に触れ、
その時の感動を何でも絵皿にしたのです。
始めてゴルフに興じたであろう人たちのコミカルな絵皿

蜻蛉の飾り物 ¥9500

時代は、明治か大正か、真鍮と鉄でできた蜻蛉の飾り物。
夏の夜に障子や簾にかけてその影を楽しんだ玩具です。

大正ガラス徳利 ¥8500

江戸末から大正にかけて作られた観賞用のガラスの徳利。
古いものでは銀彩のものもあるが、これは、透明地に、
カラフルな色彩で、おしどりなど涼しげに水辺を描いて
あります。エナメルで色付けをする当時の技術です。

HISTORY

KAMAKURA 場所の記憶 No.15

ミルクホール その6 ルーツ

梅雨を目前にしたこの季節に、鎌倉の海岸にでると、全身にねっとり
と、まとわり付くような濃厚な潮風の香りを嗅ぐことができる。それは、汐と、
なにか海の生き物の匂いとが交じり合ったような湿気の強い風です。
私は、毎年この季節になると、海のこの風を感慨深く吸い込むのです。
24年前のこの季節に、私は修学旅行以来始めて一人で鎌倉を訪れました。
そして、その日に稲村ヶ崎に住むことを決めてしまったのです。
この地に来たこともなく、ただの一人の知人もいなかった私には、なんとも
突拍子もない思いつきでした。当時、東京で仕事に追われる日々
に疲れていた私には少しの間休養をとるという目的があり、それは仮の宿
といったところでしたが、それからすでに、24年もの歳月が流れました。
初めは湿気が強すぎて馴染めなかったこの潮風が、今では懐かしく、
愛おしくさえ思えます。

そして、稲村ヶ崎で過ごすようになって数ヶ月が経ち、ミルクホールを
訪れる機会を持ちました。ミルクホールにとって縁の深い、伊豆の韮山
という地は、私の親類ゆかりの地でもありました。
韮山は、若き日の頼朝が流され、北条政子と出会った地でもあります。
私は縁あって、その後何度となく韮山に足を運んでいます。
ミルクホールと伊豆韮山の縁の始まりは、遠く中国の
青島でありました。第二次大戦最中のことです。

ここにその始まりを示す、一枚の写真があります。
それは、古めかしい建物の前で召集の祝いを受
けている兵隊と、そこに寄り添う女性の写真でした。



次号へ続く

LIVE
6/16 Sat. pm 7:30

毎月第三土曜日の夜は
ハーフムーンのライブで、
MILK HALLのBAR TIMEを
お楽しみください

by HALF MOON HALF MOONの音楽は
愛と平和を歌います。

琢磨 仁 (Jin Takuma)
琢磨 啓子 (Keiko Takuma)

Information

ミルクホールタイムス定期購読募集

ミルクホールタイムスご愛読頂くお客様へ
ミルクホールタイムスは、毎月25日の定期刊行致しております。ミルクホールで
は定期購読ご希望のお客様を募集しております。お申し込みの方へは、毎月
25日に発送致します。メール、FAX、お葉書などでの申し込みをお待ちして
おります。年間定期購読料 ¥1500

ミルクホールタイムス総集編

「鎌倉ミルクホールタイムス」No.001 ~ No.100

ミルクホールにて販売中 一部 ¥1800

ミルクホールタイムス創刊号から100号まで全てを編集した、ミルクホールタイ
ムス総集編を発行いたしました。人気連載中の『鎌倉の猫事情』が、第一話より
前編終りまで掲載されています。HPからのお申し込みもお受けしています。

〒248-0006

PHONE 0467-22-1179

鎌倉市小町2-3-8

e-meil/ info @ milkhall.co.jp



和の小もの

..... 和の小もの

ミルクホールオリジナル 和の小もの
大正・昭和初期時代の絹の着物の布地を
素材に使った和の小もの色々です

伝統柄いろいろ
昔の着物の良さを
生かしました

つくり帯
半衿・帯揚げ
くるみボタン
かんざし

✂ 半衿・帯揚げ

★★各種半衿 新入荷

半衿は、着物のコーディネートのポイントです。半衿を替えてみるだけで、一枚の着物の雰囲気が変わります。鹿の子絞りや、ちり緋、お召し、銘仙など、昔の着物をほどいて半衿に仕立てました。

日本の伝統柄を組み合わせて、自分流の着物のアレンジを試してみませんか？



✂ 古布

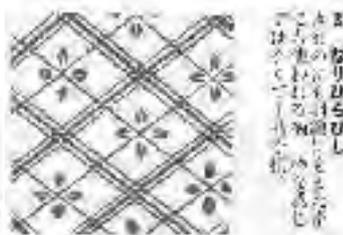
昔の着物は、職人の手がかかっていて上質です。着物としては、もう着られないものを、丁寧にほどいて布地にしました。

使い方色々、最大180cmのものから、小さな端布のアラカルトまで、色々なサイズの布を揃えています。

値段の目安は1メートルで1000円です。希少価値のある柄物は、少し割高です。

端布組み合わせ ¥300より

半衿 ¥800より
帯揚げ ¥800より



✂ 帯・つくり帯

★★各種帯 新入荷

★★大正・昭和初期名古屋帯

★半幅各種

着物は、着るのが面倒なものです。つくり帯を持っていると着物が身近になってきます。初心者の方にも、着物に慣れた方にも、お気に入りのつくり帯をお持ちになることをお勧めします。また、お仕立ても致します。

名古屋帯お仕立て ¥3000より
二重たいこお仕立て ¥4000より



✂ かんざし

★ミルクホール製花のかんざし

花のかんざし ¥2500より

★ミルクホール製木のかんざし

木のかんざし ¥1800より

..... 新入荷情報

♠ 和洋家具

★★大正・昭和初期の日本の和洋家具です。
衣装箆笥・小箆笥・ケース 新入荷

- ★★★★衣装箆笥抽斗二段 新入荷 ¥28000より
明治四十四年 新潟箆笥
- ★★明治小抽斗箆笥 新入荷 ¥46000
- ★★大正時代小箆笥 新入荷 ¥24000
- ★★大正時代小抽斗 新入荷 ¥18000
- ★★戦前コートハンガー・傘立て付き ¥18000
- ★★大正時代水屋箆笥二段 特価 ¥78000
- ★★明治時代帳場箆笥一段
- ★★昭和初期時計屋用デスク
- ★★昭和初期ガラス入り本箱



♣ 古陶磁

★★各種 新入荷

- ★★★★1700年頃伊万里白磁そば猪口
- ★★★★平戸焼六角猪口入荷
- ★★伊万里ミニ猪口松葉絵付け
- ★★伊万里德利蛇の絵付け
- ★★明治銅版小皿新入荷
文明開化絵皿など
- ★★古伊万里豆皿
- ★★古染写しなます皿
- ★伊万里7寸皿各種
- ★瀬戸絵小皿
- ★伊万里そば猪口傷直し
- ★初期伊万里陶片
- ★縄文土器欠片



♣ 古民芸

- ★★戦前小箱各種入荷
- ★★李朝盆
- ★ひょうたん盆
- ちやぶ台・まな板など

◆ アンティーク

★★大正・昭和初期
色ガラス 新入荷

- ★★昭和初期目洗いグラス入荷
- ★★明治の乳白氷グラス各種
- ★★昭和初期色ガラスショットグラス
- ★★昭和初期コンパクトケース
- ★★昭和初期洗面器スタンド
- ★昔の楽しいケーキ型色々
- ★レプリカシェード ¥5800より

★ 着物・アンティーク古着

★★大正・昭和の単衣着物 新入荷
銘仙や木綿の大正・昭和初期の単衣着物が入荷しています。ゆかたもそろそろ出始めました。

- 人気の大島袖 ¥9800より
- 久留米緋 銘仙着物 お召し ¥7800より
- ¥3800より
- ¥4800より

♥ アクセサリー

春・夏用アクセサリ入荷しました。季節に合わせて替えてみませんか？
ハート型指輪・ピアス
香水瓶ペンダントなど

